

2017年10月7日

声明 ICAN のノーベル平和賞受賞を心より祝福します

核戦争に反対する医師の会

ノルウェーのオスロにある選考委員会は、10月6日、2017年のノーベル平和賞に核兵器廃絶を目指して活動してきた ICAN(International Campaign to Abolish Nuclear Weapons)を選んだと発表しました。

ICAN が受賞したことは、ICAN の協賛団体として、共に核兵器の廃絶に向けて運動してきた反核医師の会として心より祝福します。

選考委員会は「(ICAN が) 核兵器がもたらす壊滅的な結末への注目を高め、条約の採択などに向けた画期的な努力をたたえて授賞する」、「世界には北朝鮮のように、核兵器の獲得を目指す国が増えていて、核兵器の脅威はこれまでになく高まっている。」と述べ、ICAN の活動が今年6月に採択された核兵器禁止条約の制定に結実したこと、核兵器禁止条約の採択に貢献したことを大きく評価しています。

反核医師の会は、1985年にノーベル平和賞を受賞した核戦争防止国際医師会議 (IPPNW) の活動にも参加し、ICAN などが提起した「核兵器の人道的結末」の論議に呼応し、患者のいのちを守ることを使命としている医師の責務として、ヒロシマ・ナガサキの実相を世界の 人々に伝え、核兵器廃絶の大きな世論を作り上げる活動の一翼を担ってきました。

選考委員会は、「核兵器のない世界に向けた次の取り組みとして、核武装をしている国々が参加しなければならないことを強調したい」とした上で、「今回の授賞が、ICAN の目標を達成するための新たな機運の高まりにつながることを願っている」としています。

私たちは、核兵器禁止条約に 50 ヶ国が調印し、参加を表明した今、被爆国の医師として核兵器廃絶を前に推し進めるべく一層努力していくことを誓います。

そして、日本政府には、唯一の戦争による被爆国として核兵器禁止条約を批准すること、核兵器廃絶の先頭に立つことを強く求めて参ります。